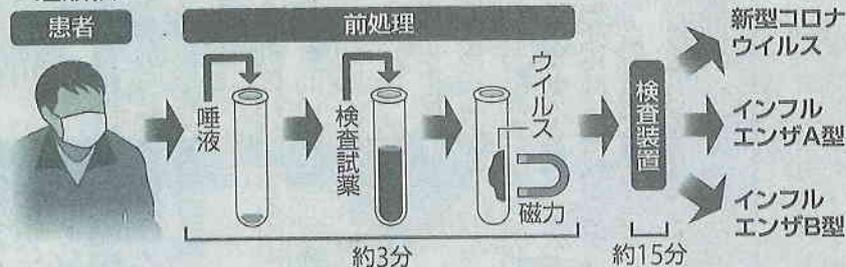


唾液検査の流れ



コロナとインフル同時判定

国内2社 検査装置年内にも

鹿児島市と金沢市の企業2社が7日、唾液で新型コロナウイルスウイルスとインフルエンザA型、B型を同時に判定できる高速PCR検査装置を共同開発すると発表した。検査にかかる時間は18分ほどで済むという。年内の実用化を目指す。

共同開発するのは、鹿児島大発の医療ベンチャー「ステイクスバイオテック」(鹿児島市)と、ペックトボトルなどの充填装置メーカー「渋谷工業」(金沢市)。

検査は、唾液0.2〜0.3ミリを金属製のナノ粒子(1ナノは100万分の1ミリ)が入った検査試薬と混ぜる。粒子が付着した唾液中のウイルスを磁力で集め、装置にかけて感染の有無を調べる。検査の前処理を約3分、判定を約15分で行い、同時に8検体を検査できるようにするという。

新型コロナウイルスとインフルエンザは発熱やせきなどの症状が似ており、同時流行すると医療機関に多くの患者が来ることが想定される。

検査は、唾液0.2〜0.3ミリを金属製のナノ粒子(1ナノは100万分の1ミリ)が入った検査試薬と混ぜる。粒子が付着した唾液中のウイルスを磁力で集め、装置にかけて感染の有無を調べる。検査の前処理を約3分、判定を約15分で行い、同時に8検体を検査できるようにするという。

ステイクスバイオテックの隅田泰生代表は検査機器を安価に抑えて大量生産を図るとし、「地域のクリニックでも取り入れてもらえたら」と述べた。

今回の共同開発について東京医科大病院渡航者医療センターの浜田篤郎教授

は、「唾液は検体を採取しやすく、医療従事者の感染リスクも少ない。開業医が簡単に検査できるようになれば意味がある」と話している。